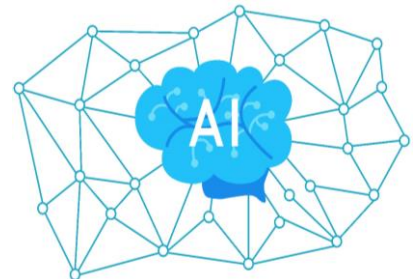




## シンギュラリティとは？

文科省のホームページを閲覧していると「シンギュラリティ」という言葉が目飛び込んできました。国内では、2016年にソフトバンクの孫正義氏が「シンギュラリティは人類史上最大の革命である。」と発言し、認知が広がりました。その言葉が文科省のHPにも掲載されていたので、ドキッとしました。シンギュラシティとは、人工知能が人類を超えることです。レイ・カーツワイル氏の著書「The Singularity is Near」(邦題:ポスト・ヒューマン誕生)によると、AI(人工知能)が人類の脳を超えることで「AI自身がより優れたAIを生み出せるようになる」と見解を示しています。これがいわゆる「2045年問題」です。数年前には、フェイスブックが開発したAIが、人間には理解できない独自の言語で会話をはじめ、同社はこのプロジェクトを緊急停止させたという話題も世間をざわつかせました。



我々人類は、来たる2045年に備えて、AIの進化を遂げる様子を注意深く観察し、問題が生じれば、すぐに課題に対応することが必要になってくると思います。そこには、仲間との協調性や積極性、粘り強さやモチベーションの高さといった数値では図りにくい能力(非認知的能力)が欠かせません。逆に言うと非認知的能力は、AIが最も苦手な部分であり、人類の強みと言えるのです。そうすることで、「時代に適応できる生き方」や「AIと共存した社会」の在り方が見えてくると思います。

本校で取り組んでいる道徳教育は、まさにこの非認知的能力を育成しています。今後、社会の様々な場面で、これらの力を発揮し、活躍する子供たちが巣立っていくことに期待しています。

## ムラサキの芽が出ました

昨年12月初旬ごろ、緑化委員会の子供たちが種から植えたムラサキが発芽し始めました。理科室の育苗土の中で一つ一つ顔を出しています。今のところ、一番大きなムラサキも1cm位の大きさで、心もとないのですが、順調に育ってくれることをただただ見守るしかありません。「わくわく通信3号・41号」でもお知らせしていますが、ムラサキは、本校の校花です。担当の牛島先生の指導の下、ムラサキの花から種を取って、発芽させ、次年度用の花として繋いでいます。このような地道な作業によって、「託麻野に生ふるムラサキ 匂ふごと開けゆくまち」となるよう命のバトンタッチは行われているのです。

